

中村哲を支えた人たち ～偉業の真意に迫る～

ペシャワール会PMS支援室・室長 / PMS・総院長補佐
藤田 千代子 (フジタ チヨコ)

座長：石東 麻里子 いしつか脳神経クリニック 漢方内科

略歴

鹿児島県出身。

徳洲会病院（福岡市）勤務を経て1990年9月、当時中村哲医師の赴任先であったパキスタンペシャワールのミッション病院へ看護師として赴任。以降、医療活動を始め、井戸掘り、食糧配給、その後の用水路事業等、一貫して中村医師の現地活動を支えてきた。

1998年 日本の寄付でペシャワールに建てられたPMS基地病院（総院長・中村哲）では、院長代理の責務を果たした。

2009年 現地の治安悪化のため退避帰国し、現在ペシャワール会PMS支援室 室長およびPMS総院長補佐として、現地活動を支えている。

2022年 フローレンス・ナイチンゲール勲章を受章。現在に至る



私たちは、ハンセン病診療を柱としつつ、1つの基地病院と、パキスタン・アフガニスタンの山岳地帯に、最大11ヵ所の診療所を開設し活動してきた。ところが、2000年夏、アフガニスタン全土で大干ばつが一举に進行し、渇水で畑は干上がり、砂漠化が深刻化した。干ばつで診療所のある村がまるごと難民化することもあった。診療所があっても水がない。村人の生存そのものが不可能な事態まで追いつめられていたのである。

飢えと渇きは薬では治せない。きれいな水があれば、感染症や皮膚病の予防にもなる。1600本の井戸を掘り、2003年からは農業用水路の建設を始めた。現在までに私たちが建設した農業用水路で復活した農地は23800ha。およそ65万人以上の生存を確保することができた。農地が無ければ難民になるか、武装勢力や外国軍の傭兵になるしかない人々である。井戸水や農業用水を確保することによって生命の維持と疾病の予防がもたらされただけでなく、地域の治安安定にも寄与した。